

オープンアクセス・ウィーク2025

Who Owns Our Knowledge?

— 我々の知識は誰のものなのか？ —

今年のオープンアクセス・ウィークは、「我々の知識は誰のものなのか？」がテーマです。

単純に考えると、我々の知識は我々のもの、と、答えは自明のようでもあります。知識とは何か、我々とは誰なのか、現在の知識を取り巻く環境をふまえた上で、あらためて振り返ってみる問いにもなり得るでしょう。

特許権や著作権など、現代社会では様々な知的生産物に財産権が認められています。学術誌で発表する論文等は、契約時に著作権を出版社や学会に譲渡することが多く、その場合には著作者は自分の著作物であっても自由に再利用はできません。著作権は、著作者を盗作や海賊版などから守る権利ですが、一方で、学術雑誌が高騰し、大学等が購入継続しにくくなるという状況も生じています。まさに、知識が誰のものなのかが問われる事態といえるでしょう。そして、昨年打ち出された施策が学術論文等の即時オープンアクセス化です。

2024年2月16日、統合イノベーション戦略推進会議において「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」*が策定されました。「公的資金によって生み出された論文や研究データ等の研究成果は国民に広く還元されるべきものである」という方針の元、2025年度から新規公募される競争的研究費による成果にオープンアクセス化が義務付けられることになりました。

(注)

*学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針

https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf



オープンアクセスとは

学術論文など、研究成果を誰でも読めるようにインターネット上で無償公開し、知識を共有することです。

オープンアクセスにすることで、「全世界の人に読んでもらえる」「引用してもらえる可能性が高くなる」などのメリットがあります。

オープンアクセスウィークとは

オープンアクセスの意義を広める取り組みです。

アメリカのSPARC (Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition) が主催し、毎年10月に世界各地で行われています。

オープンアクセスにする方法

研究成果をオープンアクセスとする方法として、以下の2つの方法があります。

- ・ 大学や学術団体の運営する機関リポジトリでの公開する方法 (グリーンオープンアクセス)
- ・ 論文投稿料等費用を支払うことで、出版と同時に無料公開する方法 (ゴールドオープンアクセス)

詳しくは、ポータルに掲載の
「オープンアクセス (OA) 推進のための支援等」をご確認ください
<https://portal.omu.ac.jp/information/Lists/gakujyutsu/DispForm.aspx?ID=48>



2025年10月20
▶ 26日
#OAWeek

大阪公立大学 学術情報課リポジトリ担当

TEL : 072-247-6036

E-Mail : gr-gakj-nk-repo@omu.ac.jp

大阪公立大学学術情報リポジトリ <https://omu.repo.nii.ac.jp>

